

国道10号 ^{すみよし} 住吉道路

第4回 説明資料

令和2年 2月12日

国土交通省 九州地方整備局

本日、ご審議いただく内容

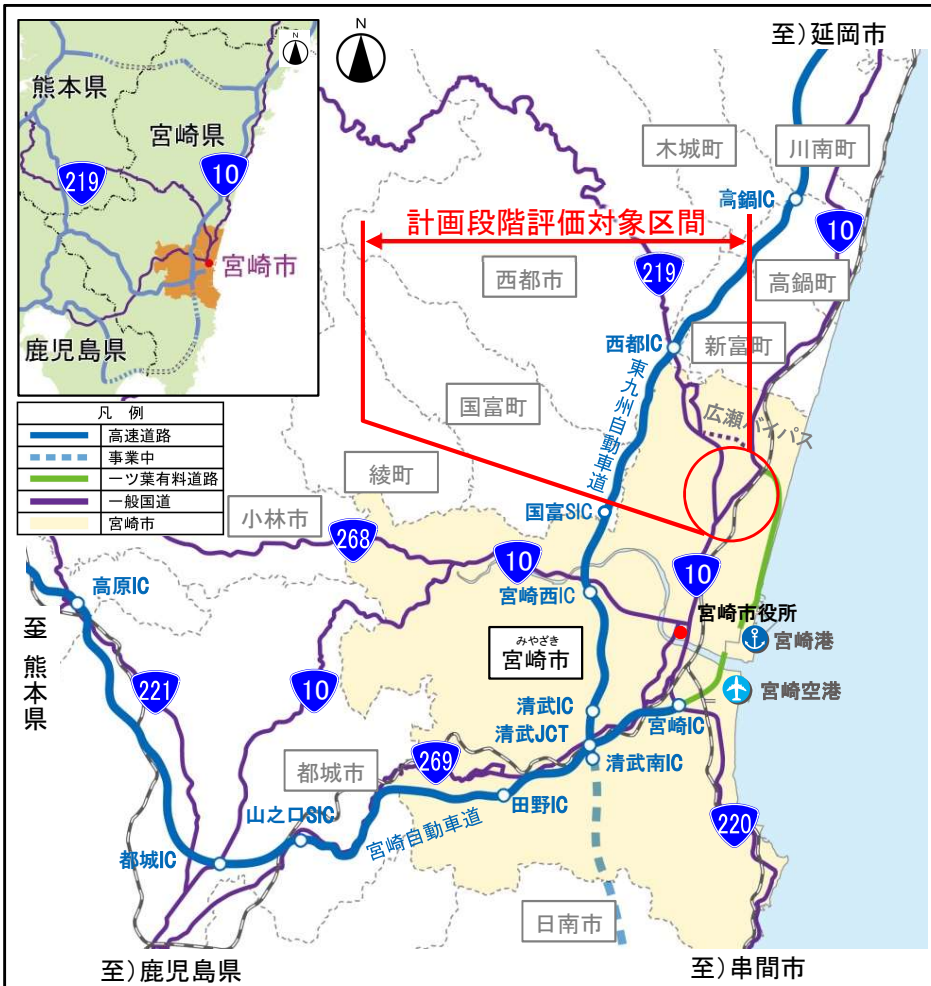
1. 前回までの審議内容	・ ・ ・	2
2. 第3回意見聴取の概要	・ ・ ・	7
3. 第3回意見聴取の結果	・ ・ ・	14
4. 対応方針（案）の検討	・ ・ ・	22
5. 自治体の意見照会	・ ・ ・	26
6. 対応方針（案）まとめ	・ ・ ・	28

1. 前回までの審議内容

1-1. 評価対象区間

- 宮崎市は空港、港湾及び高速道路・国道など、主要な交通手段が中心部付近に集積。
- 評価対象区間は、宮崎市北部に位置し、県東部を縦貫する幹線道路である国道10号の一部区間であり、前後を4車線区間に挟まれた2車線区間。

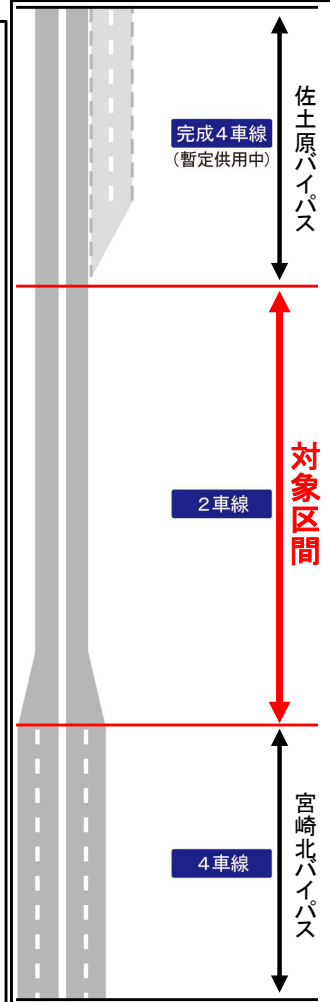
【広域図】



【路線位置図】

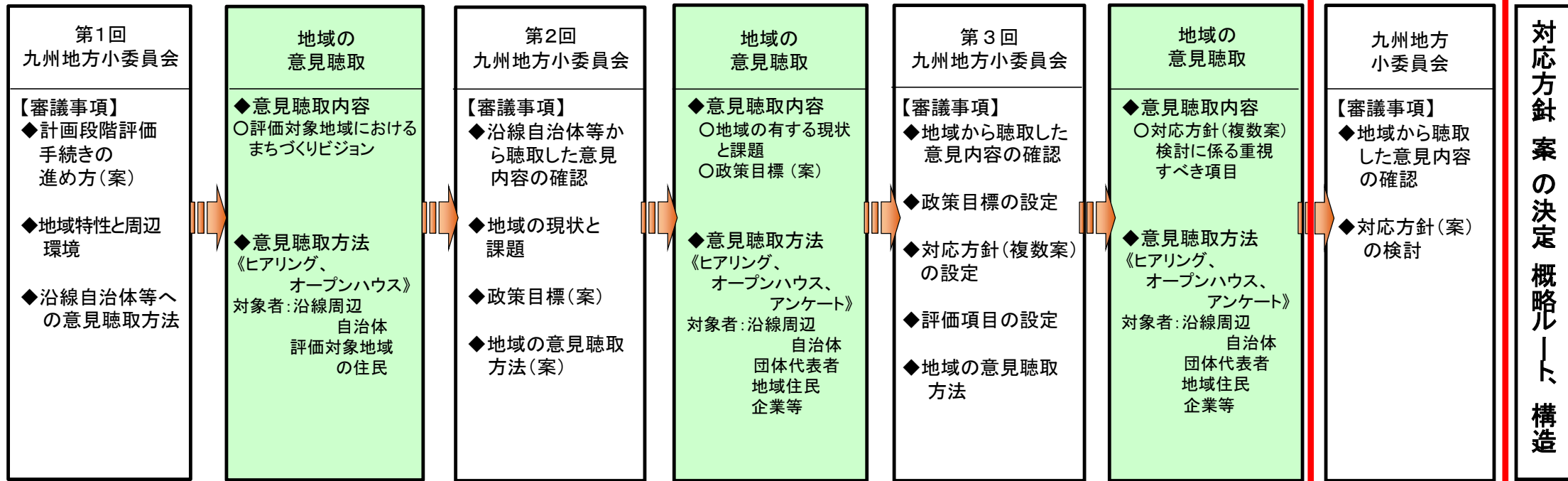


【概略平面図】



1-2. 計画段階評価手続きの進め方(案)

【平成27年3月10日】 【平成29年3月】 【平成31年2月8日】 【令和元年5～7月】 【令和元年9月11日】 【令和元年10～12月】 【令和2年2月12日】



地 方 小 委 員 会

1-3. 前回審議内容＜九州地方小委員会（3回目）＞

九州地方小委員会（3回目）の概要

■実施日

令和元年9月11日

■主な議題

- ①地域から聴取した意見内容の確認
- ②政策目標の設定
- ③複数案の設定
- ④評価項目の設定
- ⑤複数案の比較評価
- ⑥地域の意見聴取方法について

九州地方小委員会（3回目）での主な指摘事項と対応状況

指摘事項	対応方針
<p>・今後の意見聴取については、対応方針（複数案）検討に係る評価項目等の説明がより分かりやすい表現となるよう工夫して頂きたい。</p>	<p>【対応①】 ・アンケート質問を分かりやすい表現に変更した。 「沿道環境が変化しないこと」⇒「国道10号沿線の改変が生じないこと」</p> <p>【対応②】 ・地域住民の方が内容を理解して回答できるようイラストを追加した。 ⇒「JR高架部が立体構造になる状況をイラストで提示」 （整備イメージの補足、コスト増加理由の説明）</p>

1-4. 政策目標

■ 政策目標の設定

○地域の現状と課題や将来像等を踏まえ、6つの政策目標を設定し、これらの目標を達成するための対策案を検討。

地域の現状と課題

道路・交通の現状と課題

地域の将来像

政策目標

1. 交通環境の改善
2. 沿道環境の保全
3. 信頼性の高い緊急交通路の確保
4. 医療施設への速達性・走行性向上
5. 速達性・信頼性の向上による産業の支援
6. 速達性・信頼性の向上による観光振興の支援

■ 対策案の検討

【暮らし】

交通容量※確保により、交通渋滞を緩和し、円滑な移動を確保

既成市街地の衰退、無秩序な市街化の抑制

※1時間あたりに通ることができる自動車の台数

【防災】

災害時の代替路を確保し、信頼性の高いネットワークを構築

【医療】

第三次医療施設への速達性・走行性向上による救急医療体制の支援

【産業】

産業拠点間の移動時間短縮による物流効率化に伴う産業活動の支援

【観光】

観光地間の移動時間短縮による周辺観光地の一体的な観光振興の支援

基本コンセプト：交通容量および安全性を確保し、交通環境の改善および沿道環境の保全を行うとともに、災害時や救急搬送時における信頼性の向上を図る。また、広域的ネットワークの一部を形成し、走行性・信頼性の向上により地域産業・観光の支援を目指す。

○その他の配慮事項（道路整備による影響）

【生活環境・自然環境の保全と調和】

【沿道利用・周辺家屋への配慮】

【効果の早期発現】

【経済性への配慮】

既存の道路ストック活用や別線整備等の対策案を検討

2. 第3回意見聴取の概要

2-1. 第3回意見聴取の概要

■意見聴取は、自治体・団体・企業ヒアリング、地域住民アンケート及びオープンハウスなど、以下の内容を実施した。

■意見聴取期間

令和元年 10月24日(木)～令和元年 12月 1日(日)

■意見聴取の実施状況

対象	意見聴取方法	実施期間	対象の詳細	回収状況	
自治体	ヒアリング	令和元年10月28日(月) ～11月15日(金)	宮崎県、宮崎市、西都市、新富町	4自治体	
団体等			トラック協会、消防本部、農業協同組合、警察署、観光協会、商工会議所、医師会など	17団体	全79票
企業			製造業、運輸・郵便業、卸売・小売業、宿泊・飲食サービス業、農林水産業等	62社	
地域住民	アンケート	令和元年10月24日(木) ～12月 1日(日)	宮崎市内 7,200戸 住吉小学校 670世帯	3,018票 ハガキ2,915票 WEB 103票	
	オープンハウス	【平日】:3日 令和元年11月20日(水) 令和元年11月21日(木) 令和元年11月22日(金) 【休日】:2日 令和元年11月23日(土) 令和元年11月24日(日)	3箇所(宮崎市役所:平日のみ、 マルミヤストア:平日・休日、 宮崎市立佐土原図書館:平日・休日)	604票	全3,998票
広域的な道路利用者	留置き	令和元年10月24日(木) ～12月 1日(日)	道の駅(高岡、フェニックス、都農、田野)	376票 回収箱 15票 WEB 361票	

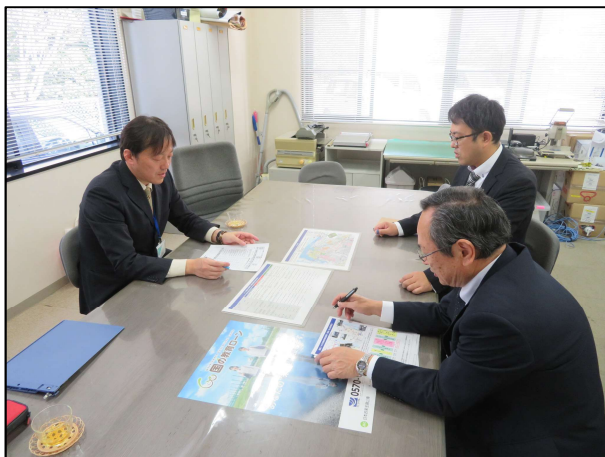
【設問事項】

○ルート帯を検討するうえで重視すべき事項に対する意見を伺う。 8

合計4,077票

2-2. 第3回意見聴取の実施状況 ~ヒアリング~

■ ヒアリング実施状況



【団体（商工会）：宮崎市】



【製造業：宮崎市】



【団体（消防）：宮崎市】



【運輸業：宮崎市】

■ 対象自治体

自治体： 4自治体

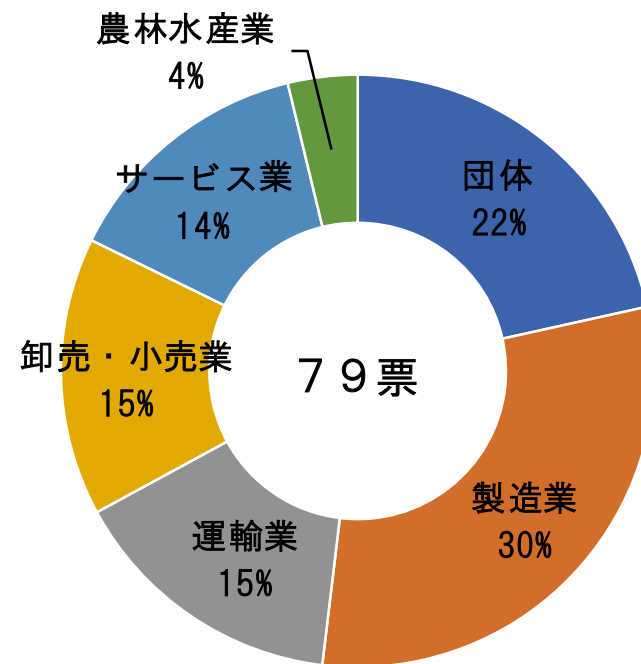
（宮崎県、宮崎市、西都市、新富町）

■ ヒアリング実施団体・企業

団 体： 17団体

企 業： 62社

全： 79票



2-3. 第3回意見聴取の実施状況 ~住民アンケート・オープンハウス・留置き~

■ 住民アンケート実施内容

ルート帯を検討するうえで重視すべき事項

① 渋滞せずに円滑に移動でき、沿道施設を利用する交通の阻害を受けないこと

② 事故の危険性が少ないこと
③ 歩行者の安全が守られ、生活道路への流入が防げること

④ 現国道10号沿線の改変が生じないこと

⑤ 災害時に国道10号の代替路として利用できること

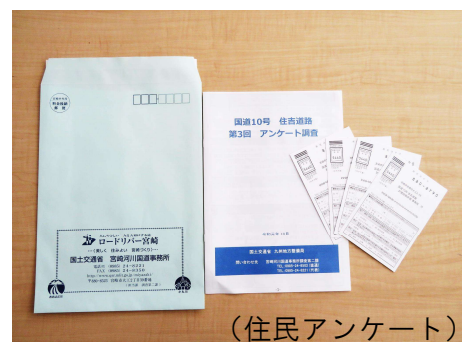
⑥ 県立宮崎病院に早く安静に行けること

⑦ 産業拠点間を予定した時間内に移動できること
⑧ 観光地間の移動時間が平休問わず短いこと

- <道路整備による影響>
- ⑨ 生活環境（騒音など）への影響が小さいこと
 - ⑩ 自然環境（動植物など）への影響が小さいこと
 - ⑪ 家屋移転が少ないこと
 - ⑫ 沿道からの利用が便利なこと
 - ⑬ 早期に整備効果が望めること
 - ⑭ 整備費用が安いこと

■ 住民アンケート調査票・回収状況

対象：地域住民
 配布：宮崎市内 7,200戸
 住吉小学校 670世帯
 意見聴取数：3,018票
 （うちWEB：103票）



■ 回答はがき (表面)

郵便はがき
 料金受取人払郵便

880-8790

宮崎中央局 承認
 5440

宮崎県宮崎市大工2-39

国道10号 住吉道路
 計画段階評価 事務

差出有効期限
 令和元年12月1日まで
 (切手不要)



下記にご記入をお願いいたします。

◆あなたご自身の事について【記入または該当する番号に1つだけ○をつけてください】

住所 [] 県 [] 市 []

性別 ① 男性 ② 女性 年齢 ① 10代 ② 20代
 ③ 50代 ④ 60代

問1 普段、住吉・佐土原地区の国道10号をどの程度【該当する番号に1つだけ】

1. ほぼ毎日 2. 週に数回程度 3. ほとんど利用しない 4. 利用したことがない

問2 住吉・佐土原地区の国道10号を通行する際の何ですか？【該当する番号に1つだけ】

1. 自動車 2. 公共交通 3. バイク 4. その他

問3 住吉・佐土原地区の国道10号を通行する際の多い目的は何ですか？【該当する番号に1つだけ】

1. 通勤・通学 2. 仕事 3. 私用 4. その他

(裏面)

問4-1 最適なルート帯の検討に必要な「重視すべき事項」について、5段階で評価して下さい。
 [①~⑭のそれぞれ該当する箇所1つだけ○をつけてください]

番号	重視すべき事項	特に重視すべき	やや重視すべき	どちらでもない	あまり重視すべきでない	重視すべきではない
①	渋滞せずに円滑に移動でき、沿道施設を利用する交通の阻害を受けないこと	5	4	3	2	1
②	事故の危険性が少ないこと	5	4	3	2	1
③	歩行者の安全が守られ、生活道路への流入が防げること	5	4	3	2	1
④	現国道10号沿線の改変が生じないこと	5	4	3	2	1
⑤	災害時に国道10号の代替路として利用できること	5	4	3	2	1
⑥	県立宮崎病院に早く安静に行けること	5	4	3	2	1
⑦	産業拠点間を予定した時間内に移動できること	5	4	3	2	1
⑧	観光地間の移動時間が平休問わず短いこと	5	4	3	2	1
⑨	生活環境（騒音など）への影響が小さいこと	5	4	3	2	1
⑩	自然環境（動植物など）への影響が小さいこと	5	4	3	2	1
⑪	家屋移転が少ないこと	5	4	3	2	1
⑫	沿道からの利用が便利なこと	5	4	3	2	1
⑬	早期に整備効果が望めること	5	4	3	2	1
⑭	整備費用が安いこと	5	4	3	2	1

問4-2 あなたが、上記事項を重視すべきと思う理由や、上記以外で重視すべきと思うことがあればご自由にお書きください。(自由回答)

ご協力ありがとうございました。

2-3. 第3回意見聴取の実施状況 ～住民アンケート・オープンハウス・留置き～

■ オープンハウス実施状況

<平日>



【令和元年11月20日（水）
宮崎市街地部：宮崎市役所】



【令和元年11月21日（木）
佐土原地区：佐土原図書館】



【令和元年11月22日（金）
住吉地区：マルミヤストア住吉店】

対 象：地域住民
会 場：宮崎市役所
 マルミヤストア
 佐土原図書館
意見聴取数：604人

<休日>



【令和元年11月23日（土）
住吉地区：マルミヤストア住吉店】



【令和元年11月24日（日）
佐土原地区：佐土原図書館】

2-3. 第3回意見聴取の実施状況 ～住民アンケート・オープンハウス・留置き～

■ アンケート回収箱の設置

＜留置き状況（道の駅4箇所）＞



道の駅 フェニクス



道の駅 田野



道の駅 都農



道の駅 高岡

＜留置き用ポスター＞

対 象： 広域的な道路利用者
意見聴取数： 回収箱 15票
WEB 361票

国道10号 住吉道路
道路計画に関するご意見をお聞かせください! アンケート実施中!

2019年10月24日(木)～12月1日(日)

WEB回答 361票

URL: <https://enquete.cc/e/samishiwbb>

アンケート用紙にご記入後、回収BOXに投函をお願いいたします。
ご協力お願いいたします!

国土交通省 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所 調査第三課 (協力) 宮崎市
問い合わせ先 宮崎河川国道事務所 調査第三課 平880-8929 宮崎市天工2丁目39 TEL:0985)24-8221 <http://www.qar.mlit.go.jp/miyazaki/>

国道10号 住吉道路対象区間位置図

【対象区間】 計画段階評価対象区間

【路線位置図】

計画段階評価の流れ

- 第1回 (10月23日)
- 第2回 (10月29日)
- 第3回 (11月1日)

【第1回アンケート】

【第2回アンケート】

【第3回アンケート】

企業等の意見聴取 (第3回アンケート)

地域の皆様、関係機関

アンケート結果の分析

地域の皆様からの意見も踏まえ、概略ルート構想等を引き続き検討します。

現在はこの段階です。

ルート帯を検討するうえで重視すべき事項

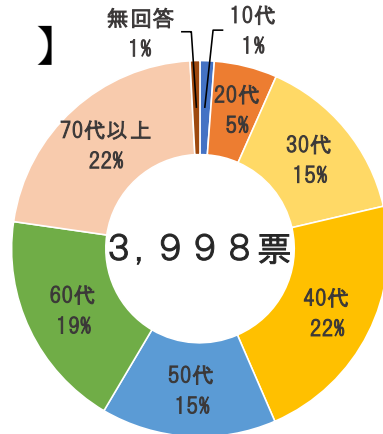
1. 沿道に既に設置されている施設や設備を利用する
2. 施設の用途が適切かどうか
3. 施設の設置場所が適切かどうか
4. 沿道10m以内の施設が設置できないこと
5. 沿道に設置した施設の代償額を低減すること
6. 高圧電線等が邪魔にならないこと
7. 景観的配慮を考慮した施設を設置すること
8. 景観的配慮が不要なこと

沿道からの利用が便利なこと
自然環境(景観など)への影響が小さいこと
沿道からの利用が便利なこと

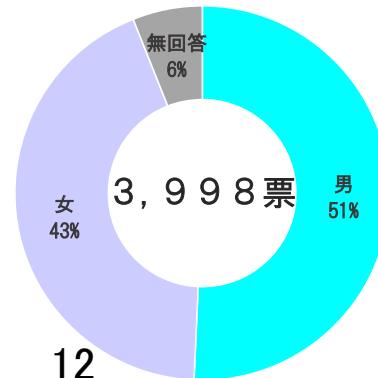
沿道からの利用が便利なこと
自然環境(景観など)への影響が小さいこと
沿道からの利用が便利なこと

■ 回答者の内訳（住民アンケート・オープンハウス・留置き）

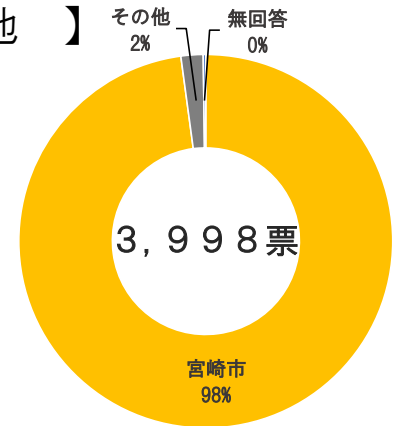
【年代】



【性別】



【居住地】



2-4. 第3回意見聴取の実施状況 ～広報～

- ①ホームページ対象 : 国土交通省宮崎河川国道事務所ホームページに意見聴取のページ（記者発表）を開設
- ②広報ポスター・チラシ : 宮崎県庁、宮崎市役所、佐土原図書館、マルミヤストア、道の駅等にポスターを掲示（住吉・佐土原地区）
- ③地域への情報提供 : 宮崎市のFacebook等、SNSを活用

①ホームページ (R1. 10. 23 記者発表)

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

令和元年10月23日
九州地方整備局
宮崎河川国道事務所

国道10号住吉道路の道路計画を進めるにあたり地域の皆様のご意見をお聞かせください

「社会資本整備審議会 道路分科会 九州地方小委員会」において、計画段階評価*の手続きを進めております。国道10号住吉道路に關し、最適なルート帯の検討に必要な重視すべき事項について皆様のご意見をお聞かせ下さい。

*計画段階評価とは、新規事業採択の前段階において、政策目標を明確化し、複数の対策案の比較評価を行うものです。

アンケート調査について

○実施期間：令和元年10月24日（木）から12月1日（日）
○調査対象等：以下のとおり

周辺住民の方	実施方法
○実施対象等：以下のとおり	○実施方法：対面方式
○実施場所：以下のとおり	
○備考：各家庭・各企業が予想される場合は延期とし、オープンハウス前日の17時までに宮崎河川国道事務所のホームページでお知らせします。	

ヒアリング調査について

○実施期間：令和元年10月28日（月）から11月15日（金）
○調査対象等：宮崎県、宮崎市、西郷村、新道町の沿線自治体及び国道10号の利用が考えられる宮崎市等の団体、企業等

オープンハウスについて

○実施期間：令和元年11月20日（水）から11月24日（日）
○実施箇所：以下のとおり
○備考：各家庭・各企業が予想される場合は延期とし、オープンハウス前日の17時までに宮崎河川国道事務所のホームページでお知らせします。

実施場所	実施日
宮崎市役所 本庁舎横（西側）	令和元年11月20日（水）
宮崎市立佐土原図書館	令和元年11月21日（木）、24日（日）
マルミヤストア住吉店	令和元年11月22日（金）、23日（土）

問い合わせ先：国土交通省九州地方整備局 宮崎河川国道事務所
技術副所長 猪狩 名人
調査第二課長 西塚 正人
TEL:0985-24-8221(代表) URL: <http://www.qsr.mlit.go.jp/miyazaki/>

②広報ポスター・チラシ

国道10号 住吉道路 道路計画に関するご意見をお聞かせください!

市街地部	住吉地区	佐土原地区
宮崎市役所 本庁舎横（西側） 11月20日（水） 11月20日（水）	マルミヤストア住吉店 11月22日（金） 11月23日（土）	宮崎市立佐土原図書館 11月21日（木） 11月24日（日）

オープンハウス会場アクセスMAP

市街地部
宮崎市役所本庁舎横（西側）
11月20日（水）
11月20日（水）
宮崎県道10-1-1

住吉地区
マルミヤストア住吉店
11月22日（金）
11月23日（土）
宮崎県道大宇島7025

佐土原地区
宮崎市立佐土原図書館
11月21日（木）
11月24日（日）
宮崎県道下田島2057-4

WEBアンケートも実施しています。会場にお越しにならない方はぜひアクセスして下さい。
インターネット上で調査可能なスマートフォンアプリもダウンロードしてご利用ください。
※アンケートの受付は11月21日（日）までです。お急ぎください。
令和元年11月21日（日）まで、お急ぎください。
①QRコードをスマートフォンで読み取る
②QRコードからアクセス
<http://www.qsr.mlit.go.jp/miyazaki/>

国土交通省九州地方整備局 宮崎河川国道事務所 問い合わせ先 宮崎河川国道事務所 調査第二課 (協力)宮崎市
〒880-8523 宮崎県宮崎市大工2丁目39 TEL:0985(24-8221)

③地域への情報提供

宮崎市広報
1時版

【国道10号住吉道路 ご意見募集！】
国道10号住吉道路の計画検討を進めるにあたり、以下のとおりオープンハウスを開催します！
国道10号住吉道路の最適なルート帯の検討に必要な重視すべき事項について皆さまのご意見をお聞かせ下さい。どなたでも参加できます。皆さまのご来場をお待ちしております！

■開催概要
宮崎市役所本庁舎横（西側プレハブ）
11月20日（水）9時～16時
マルミヤストア住吉店
11月22日（金）9時～16時、
11月23日（土）10時～16時
宮崎市立佐土原図書館
11月21日（木）9時～16時、
11月24日（日）10時～16時

詳しくはこちら（宮崎河川国道事務所）
～10月23日記者発表 ホームページリンク～
http://www.qsr.mlit.go.jp/miyazaki/nt_list/nt1/
WEBアンケート回答ページ
<https://enquete.cq/s/miyayoshiweb>

23

(宮崎市 Facebook)

3. 第3回意見聴取の結果

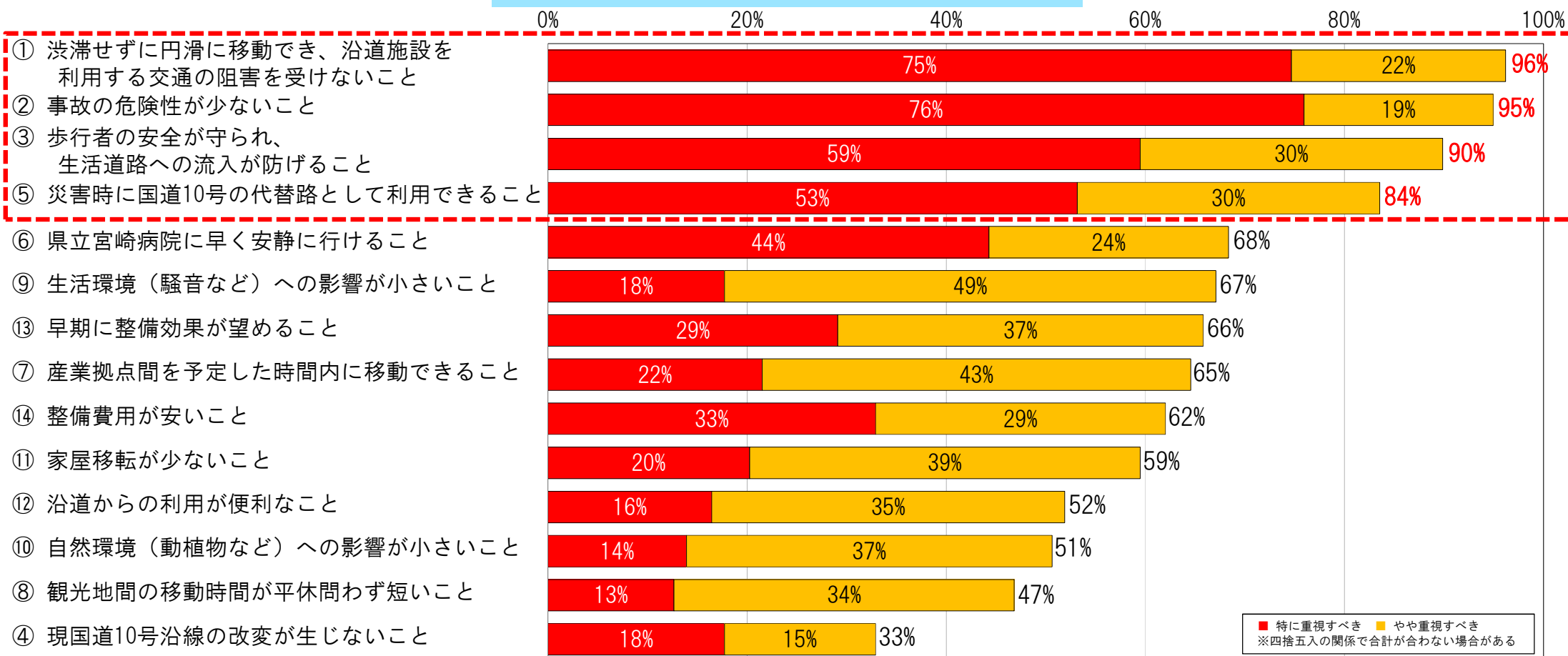
3-1. 第3回意見聴取の結果（ルート帯案に関すること）

■ 団体・企業（ヒアリング）

○「①渋滞せずに円滑に移動でき、沿道施設を利用する交通の阻害を受けないこと」「②事故の危険性が少ないこと」「③歩行者の安全が守られ、生活道路への流入が防げること」「⑤災害時に国道10号の代替路として利用できること」について8割以上が『特に重視すべき』、『やや重視すべき』と回答。

<質問>最適なルート帯の検討に必要な「重視すべき事項」について、5段階で評価してください。
【①～⑭のそれぞれ該当する箇所に1つだけ○をつけてください】

【団体・企業（ヒアリング）】 79票



■ 特に重視すべき ■ やや重視すべき
※四捨五入の関係で合計が合わない場合がある

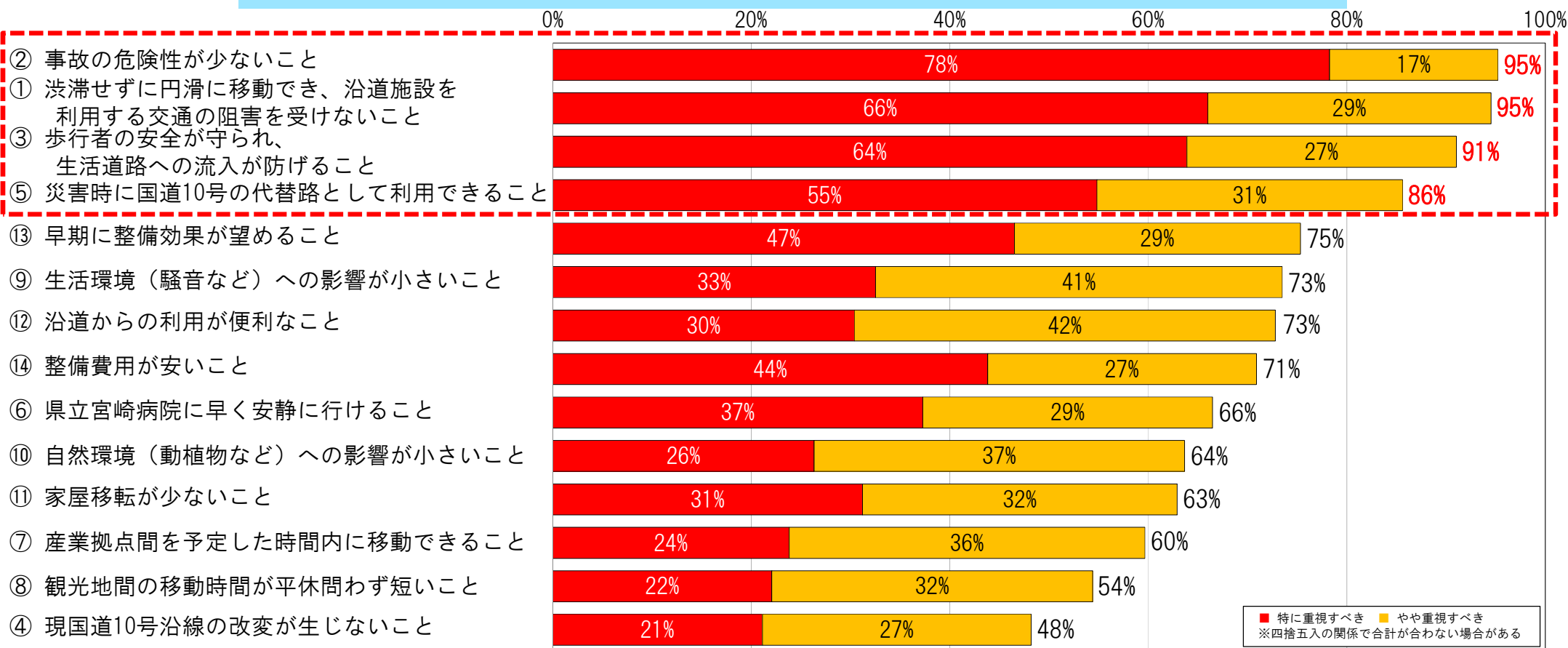
3-2. 第3回意見聴取の結果（ルート帯案に関すること）

■ 地域住民（住民アンケート・オープンハウス・留置き）

○「②事故の危険性が少ないこと」「①渋滞せずに円滑に移動でき、沿道施設を利用する交通の阻害を受けないこと」「③歩行者の安全が守られ、生活道路への流入が防げること」「⑤災害時に国道10号の代替路として利用できること」について8割以上が『特に重視すべき』、『やや重視すべき』と回答。

<質問>最適なルート帯の検討に必要な「重視すべき事項」について、5段階で評価してください。
【①～⑭のそれぞれ該当する箇所に1つだけ○をつけてください】

【地域住民（住民アンケート・オープンハウス・留置き）】 3,998票



3-3. 第3回意見聴取の結果（ルート帯案に関すること）

■ 自治体

○自治体からは、政策目標に関して幅広い意見が寄せられた。

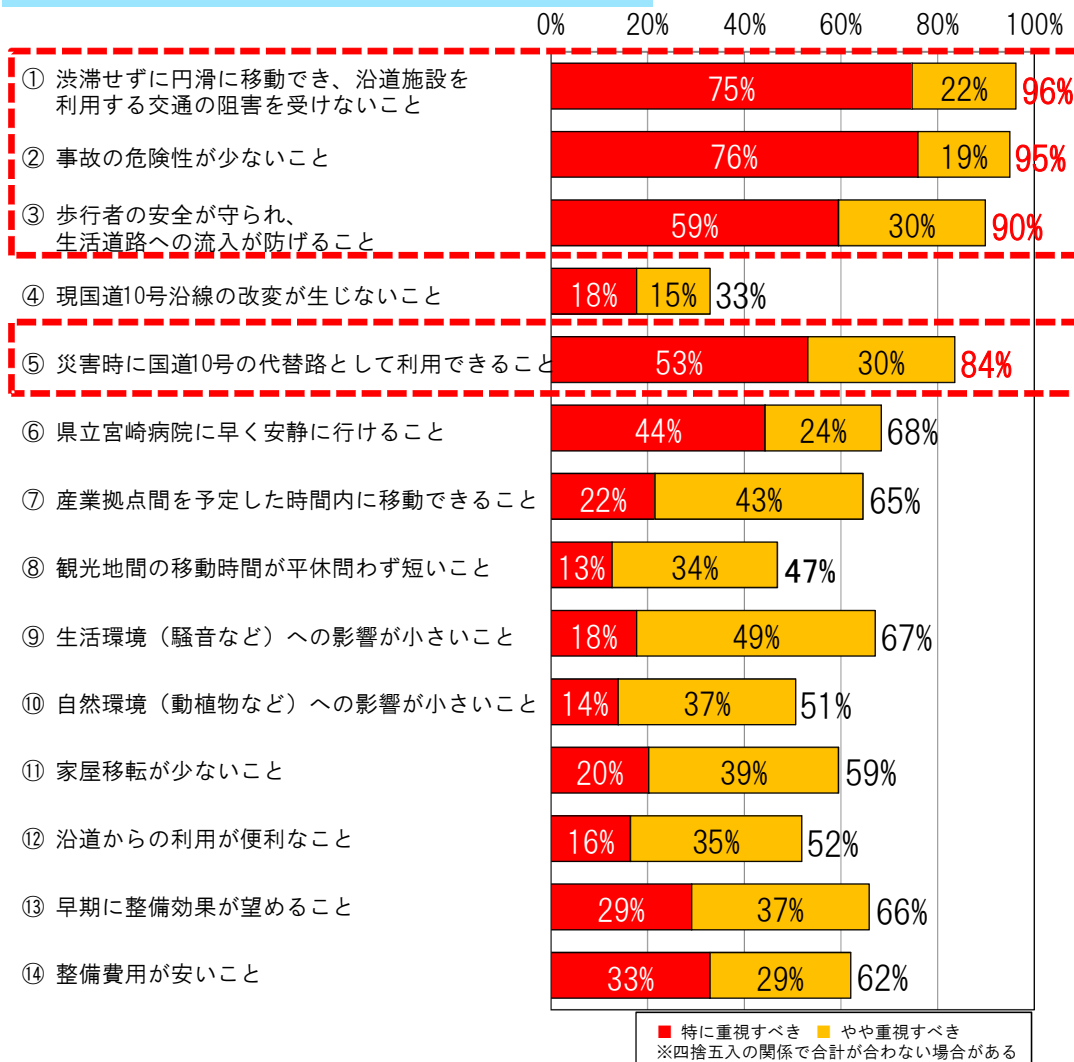
（自治体からの主な意見）

	主な意見
宮崎県	<ul style="list-style-type: none"> ・住吉道路は、地域高規格道路候補路線「宮崎環状道路」の機能を有し、「サービス速度の向上」が必要であり、地域内交通(沿道施設を利用する交通)と通過交通を分別するようなルート帯が望ましい。 ・災害時に東九州自動車道とともに避難路や緊急車両通行路として重要な役割を担い、十分な輸送機能確保やリダンダンシーの観点から、災害時における代替路の確保は有効である。 ・慢性的な渋滞を避けるため地区内の生活道路に流入する車両により、周辺教育機関への通学生をはじめとする歩行者の安全性に不安があるため、地域関連交通と通過交通を分別するようなルート帯が望ましい。 ・県立宮崎病院への救急搬送件数が年々増加傾向であるなか、住吉道路は、当地域や新富町、宮崎市佐土原町から県立宮崎病院への幹線路であることから、搬送時間短縮が図られるルート帯が望ましい。 ・年間を通じて県内外からの車を利用した観光客が宮崎市に集中しているため、宮崎市中心部と県北方面とを結ぶ上で、定時性・速達性が図られるルート帯が望ましい。
宮崎市	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の沿道には、多くの商業施設等が立地し、車両の出入り等による慢性的な交通渋滞が発生しているため、市民生活や企業活動、路線バスの運行等に多大な支障をきたしている。このため沿道施設への車の出入りによる交通阻害を排除できるルート帯が望ましい。 ・高齢者をはじめとした地域住民及び、徒歩や自転車を利用して周辺の小・中学校、高校へ通学する生徒の安全性を確保するには、渋滞を回避する交通の生活道路への流入交通を抑止する必要があるため、通過交通を新設バイパスに転換させ通過交通と生活交通の分離が図られるルート帯が望ましい。 ・国道10号は、災害時の緊急輸送や復旧支援ルートとして重要な役割を担う路線と考えられるが、現況では災害時に交通が集中することで渋滞が発生し機能が発揮されにくいものと考えられるため、災害時にも機能するバイパスのルート帯が望ましい。 ・沿線店舗等への出入り交通や信号交差点の影響で円滑な救急搬送が困難な現状を改善するには、時間短縮効果が見込まれ、信号交差点が少なく搬送患者の負担軽減に寄与するバイパスのルート帯が望ましい。
西都市	<ul style="list-style-type: none"> ・防災・物流・観光等の観点から円滑に移動できることが大事であるため、沿道施設への利用が少ない構造が望ましい。 ・沿線住宅地内の生活道路における交通事故の危険性を低下することができるルート帯を重視すべきである。 ・災害時の緊急輸送などで代替路としての機能を果たせるルート帯を重視すべきである。 ・医療機関への移動時間短縮が図られるルート帯を重視すべきである。
新富町	<ul style="list-style-type: none"> ・現国道10号よりも信号交差点が少なく円滑に走行できるため、渋滞緩和が期待できるバイパスのルート帯が望ましい。 ・自動車交通がバイパスへ転換することにより、現国道10号の交通量が減少するため、他案に比べて安全性が高まるバイパスのルート帯が望ましい。 ・現国道10号の代替路となり、防災道路として機能することが期待できるバイパスのルート帯が望ましい。 ・事業費や移転対象となる家屋等の立地状況を考慮すると、他案に比べて早期整備可能と思われるバイパスのルート帯が望ましい。

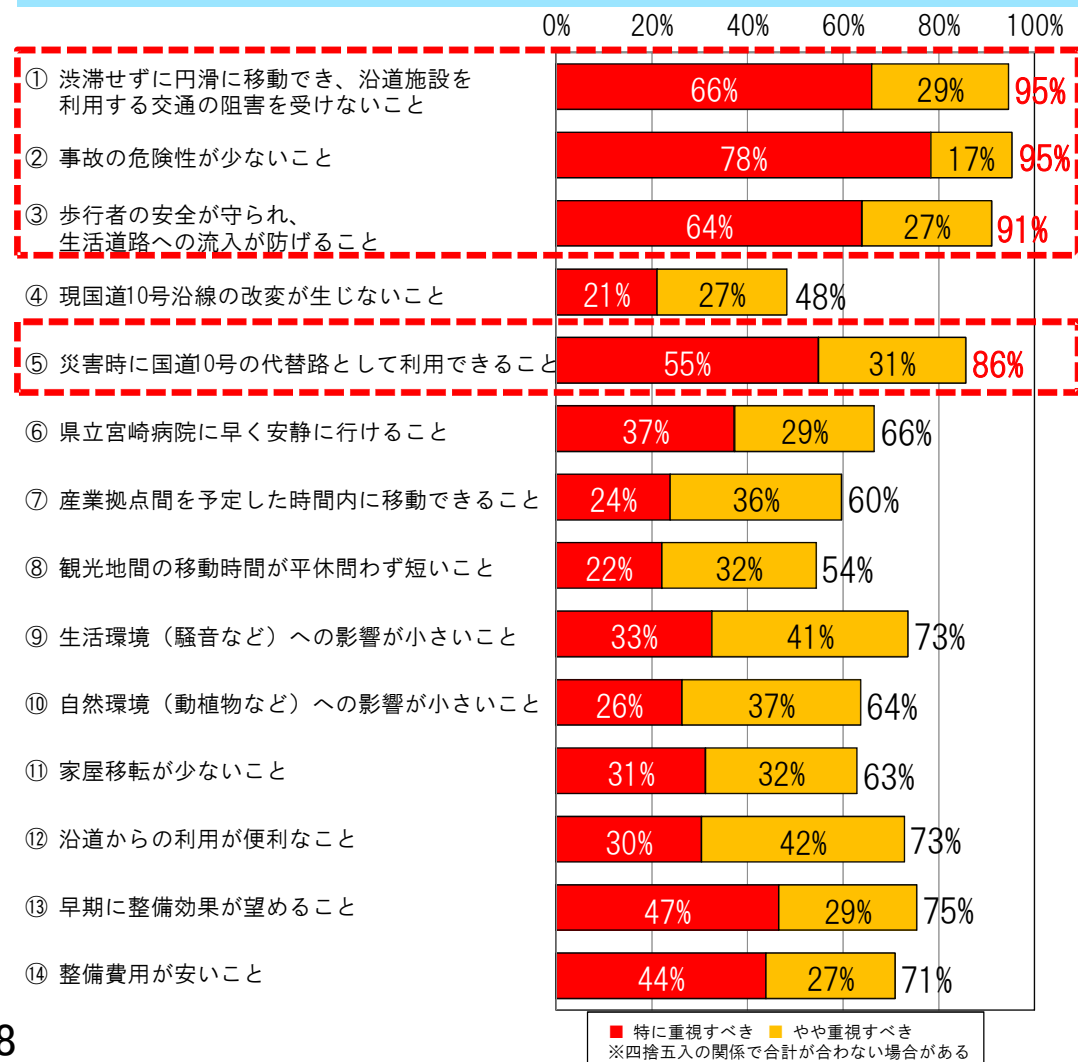
3-4. 第3回意見聴取の結果 <まとめ> (ルート帯案に関すること)

○団体・企業および地域住民への意見聴取では、「①渋滞の緩和」について重視している声が9割以上と最も多かった。
 ○つづいて、「②交通事故の減少」「③歩行者の安全性確保」についての意見が約9割と多く、「⑤代替路の確保」について8割以上と多い結果となった。

【団体・企業（ヒアリング）】



【地域住民（住民アンケート・オープンハウス・留置き）】



3-5. 第3回意見聴取の結果 <まとめ> (自由意見に関すること)

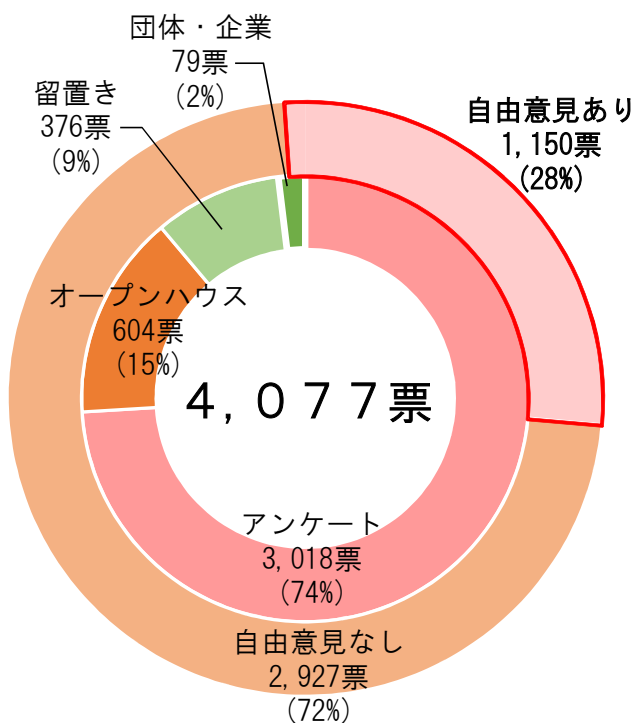
○第3回意見聴取において、アンケート3,018票、オープンハウス604票、団体・企業ヒアリング79票、留置き376票、全4,077票の回収を行った。

このうち、自由意見として1,150票の意見が寄せられた。

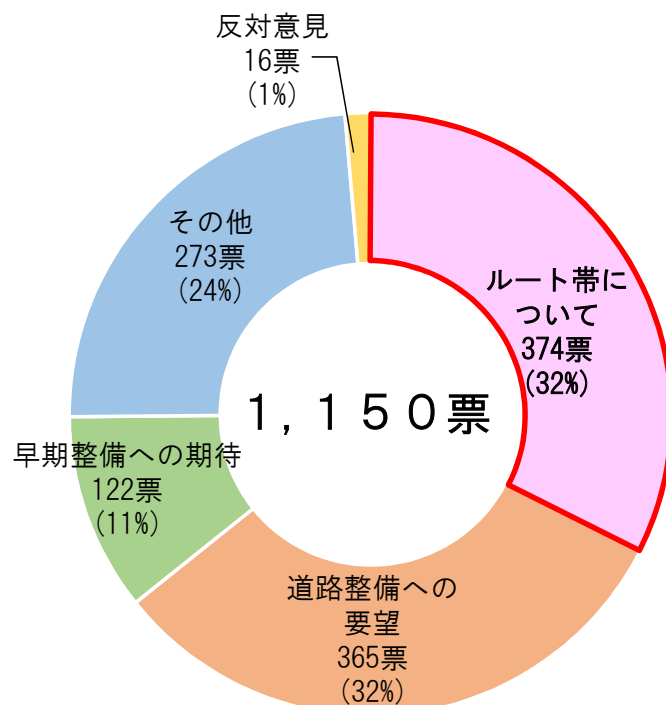
○自由意見の内訳として、ルート帯案に関する意見が多かった。

○なお、ルート帯案に関する意見については374票(592意見)が出された。

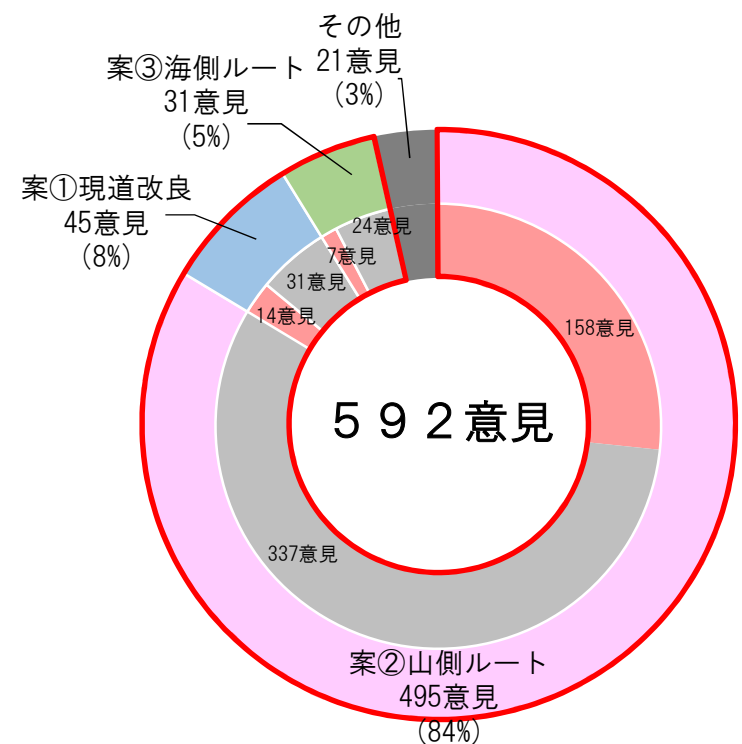
【意見聴取の回収状況】



【自由意見の内訳】



【ルート帯案に関する374票の意見の内訳(592意見)】



■ 重視すべき事項
■ その他意見

3-6. 第3回意見聴取の結果 <まとめ> (自由意見に関すること)

○【意見全体】政策目標については、渋滞の緩和等の意見が多く寄せられた。

評価項目		意見数	自由意見	
項目	評価指標			
【暮らし】交通環境の改善	① 渋滞せずに円滑に移動でき、沿道施設を利用する交通の阻害を受けないこと	渋滞の緩和	75	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国道10号を拡張すれば、現道や他線の渋滞緩和に繋がるので案①が良い ・ 案①が良い。国道10号沿いに商業施設ができることで、余計に混雑する ・ 対象地域は商業施設や学校が多く渋滞の多い所で、渋滞緩和、施設の利便性、人口減少の前提等を総合的に考えれば、案①が良い ・ 案②で国道10号及び他路線の慢性的な渋滞状況を速やかに解消すべき ・ 現在の国道10号は、いつも渋滞していて利用したくないので迂回している。案②が良い ・ 案②で整備してもらいたい。住吉地区には学校が多く、朝のラッシュ時は保護者の送迎等で渋滞している ・ 今、渋滞しているので避けている。国道10号沿いの店舗にも行きたいと思う。案③「東側バイパス案(海側案)」がいいと思う ・ 案③が良い。最も重視すべき点は、長期的にみて慢性的な渋滞の解消である
	② 事故の危険性が少ないこと	交通事故の減少	21	<ul style="list-style-type: none"> ・ 案①が良い。店が寂れず、安全に車の走行と人の行き来が出来る ・ 事故の多いイメージがさほどないが、案②が良い ・ 案②のバイパスで安全に通行できる道路が望ましい ・ 案③が良いと思う。国道10号を通行中に事故が起きると、逃げ道がなくて困る
	③ 歩行者の安全が守られ、生活道路への流入が防げること	歩行者の安全性確保	29	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状、対象区間の国道10号を利用しないように他線を利用している。新たにバイパスを造ると、学校の多い土地だけに通学に対する危険が増大する。現国道10号の改良(拡幅)を望む ・ 学校が多いことから国道10号を拡張し、歩道、自転車道を広くとり、子や孫の世代が安全に暮らせるようになることを望む ・ バイパスができることによって交通量が分散され、国道10号の通過交通が減少するので、それに伴って交通事故も減少すると思うので、案②が良い ・ 案②が良い。国道10号沿いの歩道で狭くなっている箇所は、危険で事故が多い ・ 住小、住中、日大など通学する子ども達への影響を考えると、バイパスを通すのは反対。海側の案③にするべき
【暮らし】沿道環境の保全	④ 現国道10号沿線の改変が生じないこと	既成市街地衰退の懸念および無秩序な市街化の懸念	26	<ul style="list-style-type: none"> ・ 案①が良い。店が寂れず、安全に車の走行と人の行き来が出来る ・ 日用品の買い物目的の人は、多少減少するかもしれないが、流通関係は改善される。しかし、ふらっと立ち寄る客は減るかもしれないので、経済的な冷え込みはない方がいいので重視すべき。案①が良い ・ 買い物等の目的の人は、バイパスができて利用すると思うので大幅に改変が生じるとは思わない。案②で ・ 案②のバイパスがよいが、バイパスができれば、現道(国道10号)を通らなくなる人がいるので、町の衰退が多少懸念される ・ バイパスができて、目的を持った人は国道10号を利用すると思う。案③が良い
【防災】信頼性の高い緊急交通路の確保	⑤ 災害時に国道10号の代替路として利用できること	代替路の確保	54	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物資の運搬、スムーズに動ける道、主動路・他からの代替道路として、利用できる道路を造るのであれば案①が最適 ・ 南海トラフ地震等で津波が予想される為、災害時を考えると山側が望ましい ・ 緊急車両が通れないということは絶対避けるべき。国道10号に拘らず、緊急時にスムーズに通れる道路があればいいと思う。案②が良い ・ 津波等を考慮すると案③が妥当ではないかと思われる
【医療】医療施設への速達性・走行性向上	⑥ 県立宮崎病院に早く安静に行けること	北部救急小隊から第三次医療施設への速達性・走行性向上	22	<ul style="list-style-type: none"> ・ 案①の現道改良案がいいと思う。国道10号が片側1車線なので救急車が通過するのは大変だと思うので片側2車線にすると救急車も通りやすくなるのではないかと ・ 住民の方の協力がなくて、道路を作ったからと言って早く行けるわけではないと思う。案①が良い。以前、橋通りで救急車が見えているのに避けられない人を見たことがある ・ 人命に関わる事なので、早く安静に行けることを重視すべき。案②が良い ・ 案②が良い。緊急車両が来た際、避けるのが困難 ・ 県立病院にこだわる必要はない。道路ができると海側、山側が分断されるため影響のなるべく少ない案③を推奨
【産業】速達性・信頼性の向上による産業の支援	⑦ 産業拠点間を予定した時間内に移動できること	工業団地から高速ICへの速達性向上	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ バイパス案は企業誘致のことを考えるとあった方がいいのかなと思うが、既存の企業に関しては、そこまで重要視しなくてもいいので、現道拡幅が良いのではないかと ・ 何時までに配達などあるので、産業拠点間の移動が早くできた方がいいので案②が良い ・ 朝、夕の通勤時間帯以外は、おおよその通過時間が読めるが、仕事上時間指定がある場合は、国道10号は使用しない。案②の山側案が最短ルートなので一番魅力的だと思う ・ 案③が良い。配送等もしているので、予定通りに移動できた方がいい
【観光】速達性・信頼性の向上による観光振興の支援	⑧ 観光地間の移動時間が平休間わず短いこと	高速ICから観光地への速達性向上	14	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光地間の移動が早くできることに越したことはない、バイパスの案②が良いと思う ・ 観光客は一ツ葉有料道路を使うのではないかと。国道10号は使用しないが案②西側バイパス(山側案)が最適案だと思う ・ 現時点では案②の方が良いと思う。休日の渋滞が少しでもなくなることを期待したい

 : 意見聴取で重視、または配慮すべきとされている上位の項目

3-6. 第3回意見聴取の結果 <まとめ> (自由意見に関すること)

○【意見全体】道路整備による影響については、整備に要する費用面等の意見が多く寄せられた。

評価項目			意見数	自由意見	
項目		評価指標			
道路整備による影響	生活環境	⑨ 生活環境(騒音など)への影響が小さいこと	大気質・騒音等	11	<ul style="list-style-type: none"> ・案①が良いと思う。車が通ることでの騒音はやむを得ないと思う。防音壁等の環境面の配慮が必要 ・現在、生活していても車の騒音は気にならないが、案②「西側バイパス案(山側案)」が良いと思う ・国道10号沿道は住宅もあるので騒音など問題になると思うから案②が良いと思う ・国道10号を拡幅することになると夜間工事になるのではないかと。近くに住宅があるので騒音問題が出てくると思う。案③が良い
	自然環境	⑩ 自然環境(動植物など)への影響が小さいこと	田畑・山地の改変	14	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ畑や田んぼを潰さないでほしい。現国道10号の現道改良案を求める ・案②が良い。いずれの案にしても、多少は自然環境に影響は出てくるので仕方がない ・案②が良い。CO2の発生が最も少ない。すなわち、ガソリンの使用量が少なくて済む
	家屋への影響	⑪ 家屋移転が少ないこと	移転が必要となる家屋数	20	<ul style="list-style-type: none"> ・移転が少ないことは必要だと思うが、この辺の地権者の方達はここに住んでいなくても、その土地に思いがあって買っていると思うので考慮すべきで、案①「現道改良案」が良いのではないかと。 ・案②のバイパス案が家屋移転が少ない方が費用が安く、スムーズに進むのではないかと。 ・案①が最も効果大きいと思うが、立退き費用が高くなるので案②のバイパス案が現実的だと思う ・家屋移転等が少ないことを重視すべきである。案③を希望する
	沿道利用	⑫ 沿道からの利用が便利なこと	施設へのアクセス性	5	<ul style="list-style-type: none"> ・沿道のお店の方はお客さんが減ることを心配しているので、利便性はよくなった方がよいと思うので案①が良い ・沿道からの出入りがあまりない方がよいと思うのでバイパスの方がよい(案②) ・バイパスと割り切れれば、沿道からの利便性については、やや悪くなくても構わない。案②が良い
	効果の早期発現	⑬ 早期に整備効果が望めること	発現の時期	17	<ul style="list-style-type: none"> ・案①が良いが、現道拡幅で一時的に部分的に改善しても、また問題が出てきた時に拡幅により立ち退きされた住民等からの不満がでるのではないかと ・部分的な早期の開通はさほど効果があるとは思えないので、バイパスを作って一度に解消された方がよい。将来的に利便性のある道路整備をした方がよい(案②希望) ・早期に整備効果が望めそうな案②が良いと思う ・渋滞解消がより早く実現できる案が望ましい(案③)
	コスト	⑭ 整備費用が安いこと	整備に要する費用	47	<ul style="list-style-type: none"> ・安ければ安い方がよいと思うが、災害に強い道路が良いと思う。道路が崩れたらどうしようもないので作べきところは、ちゃんと費用をかけて作るべきだと思う。案①が良い ・早期に整備でき、整備費が安価な西側バイパス案が最も望ましい ・人口減少が予想される中、多額の投資を抑えるべき(案②賛成) ・費用に見合った道路整備であれば、地域住民や利用者も納得すると思う。案③を希望
その他意見			204	<ul style="list-style-type: none"> ・現道改良での整備を望む ・宮大農場前の道路が国道10号と平行に走っているのに商業施設が集中しないからもったいない ・案①を選択します。どのみち、原因は国道10号が1車線だから起きるのであって、②のみ③のみを選んで根本的な問題が解消される訳ではないから ・案②での早期完成を願う ・比較表との整合性は完全ではないが、案②が最もよいと思われる ・西側にバイパスを通して、通過道路と商業生活道路を分離する案が良い ・海側案が良いと思う ・第③案(海側案)に近いが、一ツ葉有料道路の原口交差点から住吉ICを無料化(国道10号化)できるのであれば、整備する道路を住吉ICに接続しても良いと思う ・住吉地区の特徴として、幼稚園、小学校、中学校、高校にバイパスが近接したり、高架道であっても、通学導線がクロスしていないことが望ましい。海側案が良いと思う 	
合計				571	

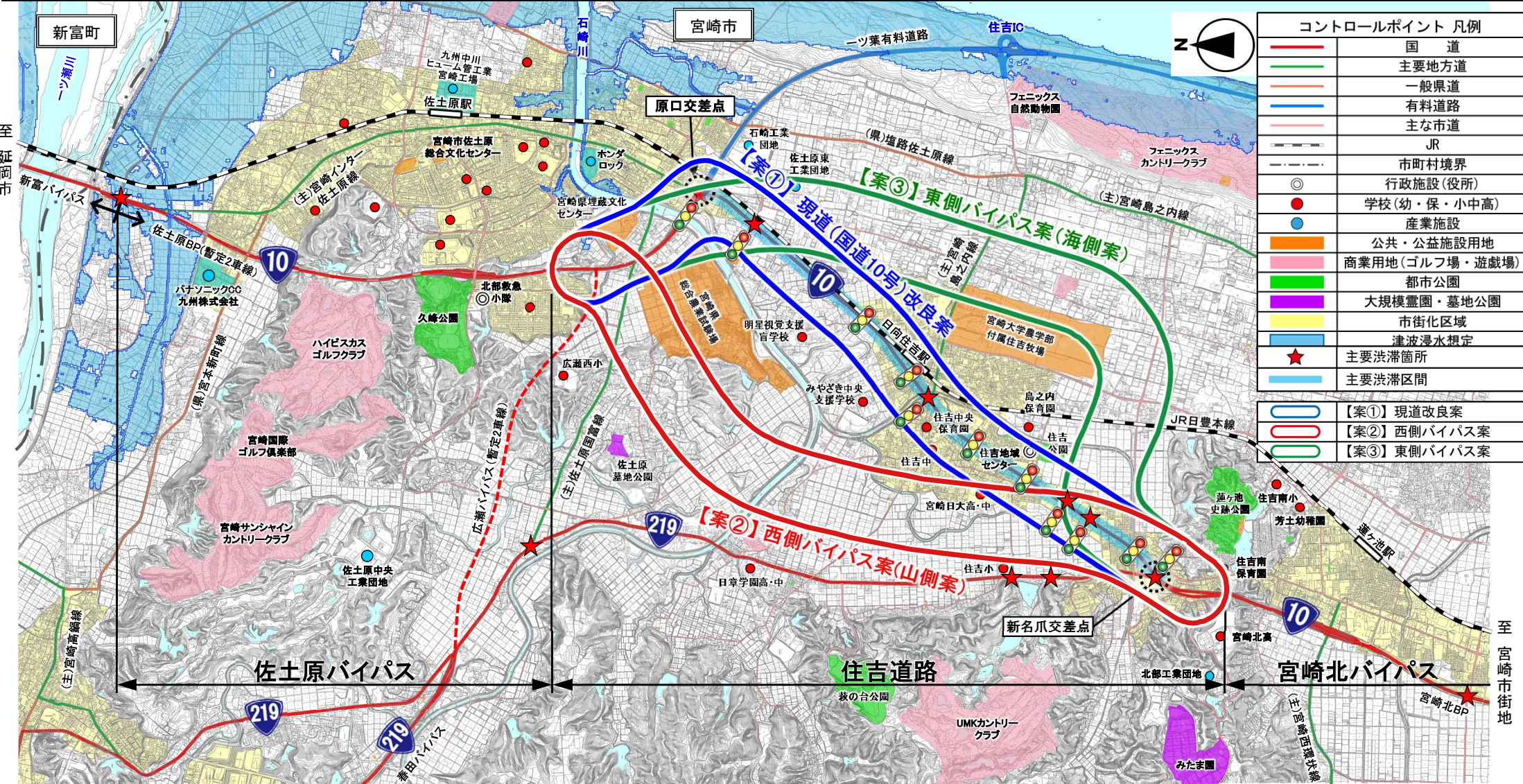
204 : 意見聴取で重視、または配慮すべきとされている上位の項目

4. 対応方針(案)の検討

4-1. 対応方針(案)の検討 <複数案の比較>

■ 比較ルートの設定

- ・【案①】 国道10号を4車線に拡幅し、交通容量の拡大を図ることで、交通混雑緩和を図る案
- ・【案②】 国道10号の西側にバイパスを整備し、通過交通を分離することで、交通混雑緩和を図る案
- ・【案③】 国道10号の東側にバイパスを整備し、通過交通を分離することで、交通混雑緩和を図る案



4-2. 対応方針(案)の検討 <複数案の比較>

■比較評価結果、全ての政策目標が概ね達成され、他案より総合的に優れていることから、ルート帯案については、【案②】西側バイパス案(山側案)を対応方針(案)とする。

評価項目		【案①】現道(国道10号)改良案	【案②】西側バイパス案(山側案)	【案③】東側バイパス案(海側案)		
項目	評価指標	国道10号を4車線に拡幅し、交通容量の拡大を図ることで、交通混雑緩和を図る案 延長 約7km	国道10号の西側にバイパスを整備し、通過交通を分離することで、交通混雑緩和を図る案 延長 約6km	国道10号の東側にバイパスを整備し、通過交通を分離することで、交通混雑緩和を図る案 延長 約7km		
政策目標	【暮らし】交通環境の改善	① 渋滞せずに円滑に移動でき、沿道施設を利用する交通の阻害を受けないこと 渋滞の緩和	△ ・交通量に応じた車線数が確保され、現国道10号の混雑が緩和される ・一方で、通過交通の混在や沿道施設・細街路からの出入り車両による通行阻害等の懸念が残る	○ ・現国道10号の通過交通の転換が図られ、混雑が緩和される ・現国道10号の沿道施設・細街路からの出入り車両による通行阻害は減少する	△ ・現国道10号の通過交通の転換が図られ、混雑が緩和されるものの、効果は案②よりも劣る ・現国道10号の沿道施設・細街路からの出入り車両による通行阻害は減少する	
		② 事故の危険性が少ないこと 交通事故の減少	△ ・通過交通が混在し、沿線店舗への出入り車両による加減速を要因とした事故が懸念される	○ ・通過交通はバイパスに転換するため、現国道10号の交通事故減少が見込まれる	△ ・通過交通はバイパスに転換するため、現国道10号の交通事故減少が見込まれるものの、効果は案②よりも劣る	
		③ 歩行者の安全が守られ、生活道路への流入が防げること 歩行者の安全性確保	○ ・全線にわたり歩道が整備され、安全な歩行空間を確保できる ・現国道10号の容量が確保され、渋滞迷いの車両が生活道路に流入することが減る	△ ・現国道10号の歩道は現況のままであり、歩行者の安全性向上には繋がらない(※1:通過交通が転換することにより、現国道10号の交通量が減少するため、歩行者の安全性向上が見込まれる) ・現国道10号から新設バイパスに行くために生活道路を利用する車両が流入する	△ ・現国道10号の歩道は現況のままであり、歩行者の安全性向上には繋がらない(※1:通過交通が転換することにより、現国道10号の交通量が減少するため、歩行者の安全性向上が見込まれる) ・現国道10号から新設バイパスに行くために生活道路を利用する車両が流入する	
	【暮らし】沿道環境の保全	④ 現国道10号沿線の改変が生じないこと 既成市街地衰退の懸念および無秩序な市街化の懸念	× ・現国道10号の拡幅により一部沿線商業施設等の改変が生じる	○ ・バイパス沿線は、概ね市街化調整区域であるため、開発は抑制され、現国道10号周辺の改変は生じない	○ ・バイパス沿線は、概ね市街化調整区域であるため、開発は抑制され、現国道10号周辺の改変は生じない	
	【防災】信頼性の高い緊急交通路の確保	⑤ 災害時に国道10号の代替路として利用できること 代替路の確保	× ・現国道10号の交通容量拡大により信頼性が向上するが、現道利用のため代替路は確保できない	○ ・別線整備により現国道10号の代替路が確保される	○ ・別線整備により現国道10号の代替路が確保される ・沿岸部周辺からのアクセス性が高い	
	【医療】医療施設への速達性・走行性向上	⑥ 県立宮崎病院に早く安静に行けること 北部救急小隊から第三次医療施設への速達性・走行性向上	△ ・北部救急小隊から第三次医療施設(県立宮崎病院)への搬送時間短縮が図られるが、交差点が多く走行性が劣る	○ ・北部救急小隊から第三次医療施設(県立宮崎病院)への搬送時間短縮が図られる	△ ・北部救急小隊から第三次医療施設(県立宮崎病院)への搬送時間短縮が図られるが他案より劣る	
	【産業】速達性・信頼性の向上による産業の支援	⑦ 産業拠点間を予定した時間内に移動できること 工業団地から高速ICへの速達性向上	○ ・北部工業団地から西都ICへの移動時間短縮が図られる	○ ・北部工業団地から西都ICへの移動時間短縮が図られる	△ ・北部工業団地から西都ICへの移動時間短縮が図られるが他案より劣る	
	【観光】速達性・信頼性の向上による観光振興の支援	⑧ 観光地間の移動時間が平休問わず短いこと 高速ICから観光地への速達性向上	△ ・西都ICから宮崎神宮への移動時間短縮が図られる	○ ・西都ICから宮崎神宮への移動時間短縮が最も図られる	△ ・西都ICから宮崎神宮への移動時間短縮が図られる	
	道路整備による影響	生活環境	⑨ 生活環境(騒音など)への影響が小さいこと 大気質・騒音等	× ・集落・市街地を通過するため、生活環境への影響は最も大きい	○ ・集落・市街地を概ね回避するため、生活環境への影響は小さい	△ ・点在する集落を通過するため、生活環境への影響は大きい
		自然環境	⑩ 自然環境(動植物など)への影響が小さいこと 田畑・山地の改変	○ ・集落・市街地を通過するため、自然・田畑の改変は少ない	△ ・バイパス区間は概ね田畑・山地であるため、自然環境の改変を伴う	△ ・バイパス区間は概ね田畑・山地であるため、自然環境の改変を伴う
		家屋への影響	⑪ 家屋移転が少ないこと 移転が必要となる家屋数	× ・集落・市街地を通過するため、家屋・大型店舗移転等が最も多い	○ ・集落・市街地を概ね回避するため、家屋・店舗移転等は少ない	△ ・点在する集落を通過するため、家屋・店舗移転等が多い
		沿道利用	⑫ 沿道からの利用が便利なこと 施設へのアクセス性	○ ・現国道10号沿道の店舗やJR日向住吉駅等に直接アクセスできる	△ ・現国道10号沿道の店舗やJR日向住吉駅等へのアクセス性は劣る	△ ・現国道10号沿道の店舗やJR日向住吉駅等へのアクセス性は劣る
		効果の早期発現	⑬ 早期に整備効果が望めること 発現の時期	○ ・段階的な開通が可能であるため、効果が最も早く現われる(※2:効果は開通区間ごとの局所的な範囲に留まる)	△ ・全線が供用しないと国道10号バイパスとしては機能しない	△ ・全線が供用しないと国道10号バイパスとしては機能しない
		コスト	⑭ 整備費用が安いこと 整備に要する費用	△ 約400~450億円	○ 約380~430億円	× 約450~500億円

比較表の内容は、現時点で想定される概ねのルートの評価を一般的な目安として記載している。

(○:改善・満足する △:一部改善・満足する ×:他案に比べ劣る)

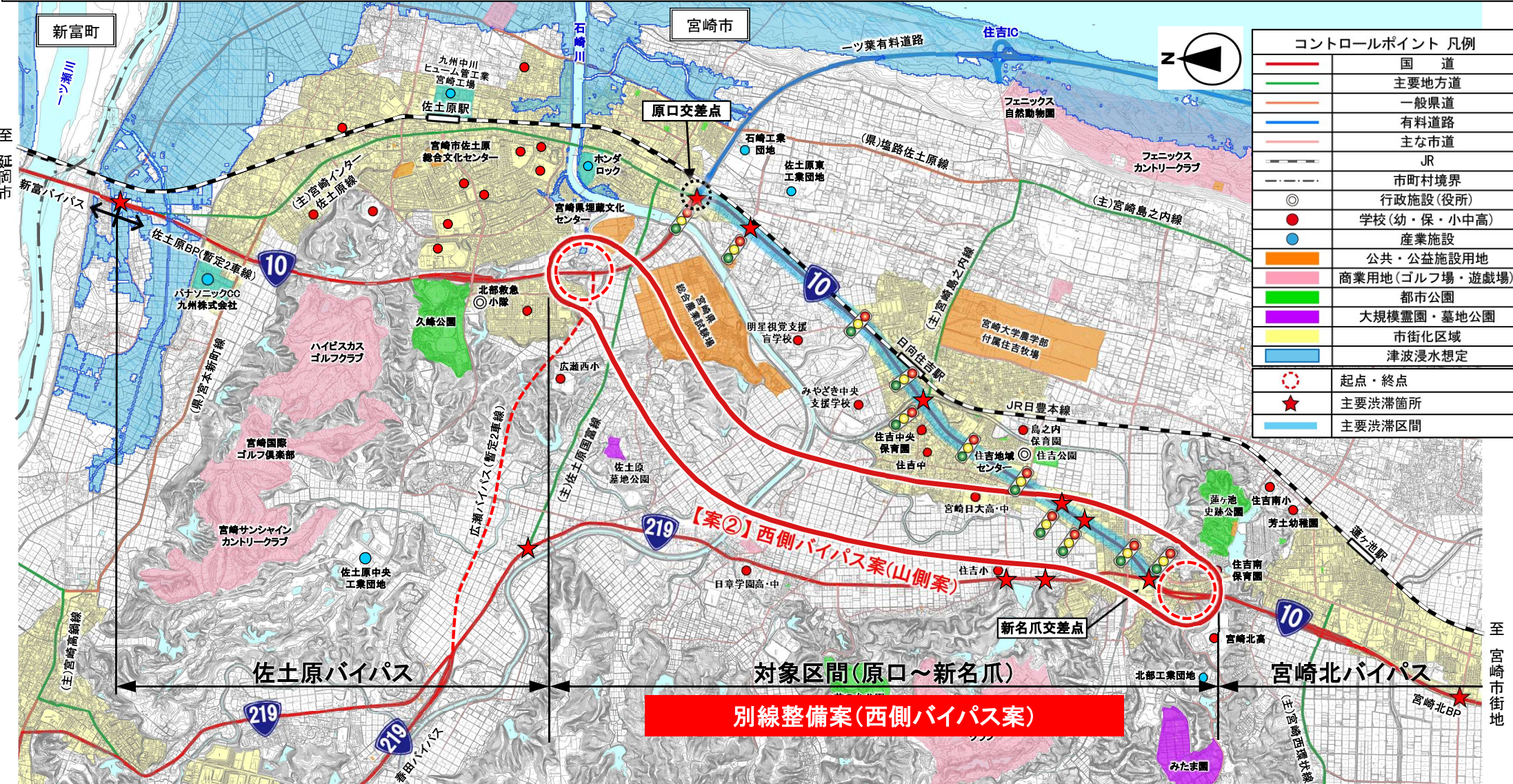
※1, ※2:意見聴取で得られた意見の内容を踏まえて評価に反映

■:意見聴取で重視、または配慮すべきとされている上位の項目
□:他の案に比較し優位

4-3. 対応方針(案)の検討 <ルート帯案の位置>

【ルート帯案の考え方】

■通過交通を分離することで現国道10号の交通を転換し、交通混雑の解消と交通事故の低減を図るとともに、現国道の沿道環境の保全、災害時の代替路機能の確保、緊急搬送時の速達性・走行性の向上、産業拠点間および観光地間の速達性の向上を図るルート



5. 自治体への意見照会

5-1. 自治体への意見照会 <対応方針(案)に対する自治体意見>


■ 意見照会の回答（要旨）

自治体名	意見
宮崎県	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国道10号住吉道路における九州地方整備局としての対応方針(素案)に同意します。 2. 当該道路は、地域高規格道路候補路線である宮崎環状道路の一部を構成し、宮崎市北部地域と中心市街地を結ぶ基幹軸であり、慢性的な渋滞の解消や交通事故の低減はもとより、災害時や救急医療における輸送ルート、また、宮崎市北部地域に立地する工業拠点や流通拠点の物流効率化による産業支援や観光振興を図る上で大変重要な道路です。 3. また、住吉道路と並行する一ツ葉有料道路については、昨年10月に有料期間の延長を決定しており、国道10号の渋滞が引き続き懸念されることから、これらの課題解決や地域振興等を担う道路として大変期待しているところです。 4. 本県としましても、環境影響評価及び都市計画決定の手続の迅速な完了や、宮崎市をはじめとした関係機関と連携し、事業進捗に必要な協力を確実に実施してまいりますので、早期の新規事業化の実現について特段のご配慮をお願いします。 5. 引き続き、宮崎県内の国道・県道など道路ネットワーク等の整備推進を図ってまいりますので、住吉道路等も含めた重要物流道路の指定をお願いいたします。

■ 意見照会の回答（宮崎県知事）

281-1470
令和2年2月10日

国土交通省
九州地方整備局長 村山 一弥 殿

宮崎県知事 河野 俊嗣 

道路事業の計画段階評価に係る意見照会について（回答）

令和2年2月7日付け国九整道一計第17号にて照会のありましたこのことについて、下記のとおり回答いたします。

記

国道10号住吉道路における九州地方整備局としての対応方針（素案）に同意します。

当該道路は、地域高規格道路候補路線である宮崎環状道路の一部を構成し、宮崎市北部地域と中心市街地を結ぶ基幹軸であり、慢性的な渋滞の解消や交通事故の低減はもとより、災害時や救急医療における輸送ルート、また、宮崎市北部地域に立地する工業拠点や流通拠点の物流効率化による産業支援や観光振興を図る上で大変重要な道路です。

また、住吉道路と並行する一ツ葉有料道路については、昨年10月に有料期間の延長を決定しており、国道10号の渋滞が引き続き懸念されることから、これらの課題解決や地域振興等を担う道路として大変期待しているところです。

本県としましても、環境影響評価及び都市計画決定の手続の迅速な完了や、宮崎市をはじめとした関係機関と連携し、事業進捗に必要な協力を確実に実施してまいりますので、早期の新規事業化の実現について特段の御配慮をお願いします。

引き続き、宮崎県内の国道・県道など道路ネットワーク等の整備推進を図ってまいりますので、住吉道路等も含めた重要物流道路の指定をお願いします。

（文書取扱 道路建設課）

（問合せ先）
 県土整備部 道路建設課 計画調査担当
 TEL：0985-26-7180（内線2954）
 E-mail：dorokensetsu@pref.miyazaki.lg.jp

6. 対応方針(案)まとめ

6-1. 対応方針(案)まとめ

1. 道路整備の必要性

【理由】

政策目標を**実現できる道路整備を検討**

【政策目標】

- ◇ 交通環境の改善
- ◇ 沿道環境の保全
- ◇ 信頼性の高い緊急交通路の確保
- ◇ 医療施設への速達性・走行性向上
- ◇ 速達性・信頼性の向上による産業の支援
- ◇ 速達性・信頼性の向上による観光振興の支援

○対象地域は、4車線区間に挟まれた2車線区間で、通過交通と沿線商業施設等の利用交通が混在し、交通容量を超える慢性的渋滞の改善や安定した緊急搬送の確保等が課題であり、交通容量・安全性の確保、災害時や救急搬送時における信頼性の向上、移動速達性が確保される道路の整備が必要。

○住民アンケートや団体・企業ヒアリングにおいても、渋滞の緩和や、安全性の確保に加え、災害時の代替路が必要という意見が多く、このような政策目標を実現できる道路が望まれている。

2. 対応方針(案)

■ ルート帯案について

『【案②】西側バイパス案(山側案)』を対応方針(案)とする。

【理由】

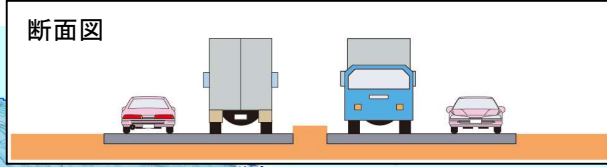
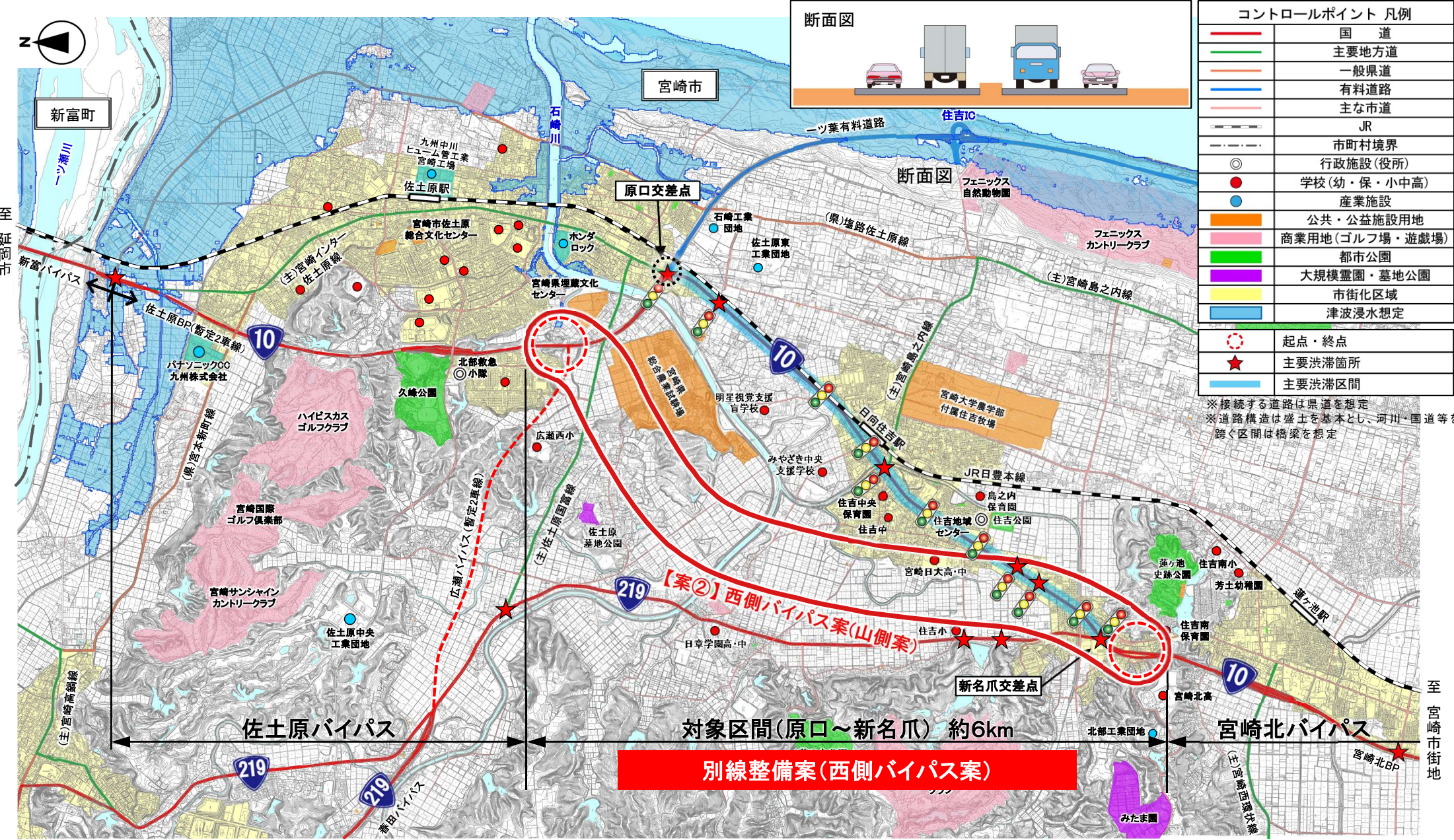
- 団体、企業および地域住民に対する各意見聴取において、「①渋滞せずに円滑に移動でき、沿道施設を利用する交通の阻害を受けないこと」「②事故の危険性が少ないこと」が最も重要視されており、つづいて、「③歩行者の安全が守られ、生活道路への流入が防げること」「⑤災害時に国道10号の代替路として利用できること」の項目について重視する声が多かった。
- 自治体からも同様の項目を重視する意見が寄せられており、「①渋滞せずに円滑に移動でき、沿道施設を利用する交通の阻害を受けないこと」「②事故の危険性が少ないこと」が最も重要視されており、つづいて、「③歩行者の安全が守られ、生活道路への流入が防げること」「⑤災害時に国道10号の代替路として利用できること」について、バイパスルートによる改善を望む意見が挙げられている。
- 比較評価の結果、重要視されている政策目標が概ね達成され、他案より総合的に優れている。

3. その他(配慮すべき事項等)

- 詳細なルート・構造の検討にあたっては、コスト縮減に留意して検討を行うとともに、既存の道路状況や沿道利用状況を踏まえながら、新たに整備される道路と既存の道路の接続方法や景観への配慮について、各関係自治体と調整を行う。

6-2. 対応方針(案)まとめ

国道10号の西側にバイパスを整備し、通過交通を分離することで、交通混雑緩和を図る【案②】西側バイパス案(山側案)とする。



コントロールポイント 凡例

	国 道
	主要地方道
	一般県道
	有料道路
	主な市道
	JR
	市町村境界
	行政施設(役所)
	学校(幼・保・小中高)
	産業施設
	公共・公益施設用地
	商業用地(ゴルフ場・遊戯場)
	都市公園
	大規模霊園・墓地公園
	市街化区域
	津波浸水想定
	起点・終点
	主要渋滞箇所
	主要渋滞区間

※接続する道路は県道を想定
 ※道路構造は盛土を基本とし、河川・国道等を跨ぐ区間は橋梁を想定